

令和5年

消防統計

火災統計

救急統計

救助統計

大崎地域広域行政事務組合

消防本部

目 次

第 1 章 火災統計

1 大崎管内における火災概要	1
火災件数	1
火災種別ごとの火災件数	2
月別の火災件数	2
2 死傷者等の発生状況	3
3 損害額・出火率	4
4 出火原因	5

第 2 章 救急統計

1 大崎管内における救急業務の実施状況	6
2 事故種別出動件数及び搬送人員状況	6
3 救急隊別出動状況	7
4 市町別出動状況	8
5 傷病程度別、年齢別搬送人員状況	8
6 月別救急出動状況	9
7 収容先別搬送人員状況	10
8 ドクターヘリ要請件数状況	10
9 救急隊員の行った救急処置状況	11
10 P A 連携出動状況	12

第 3 章 応急手当講習会等の概要

1 講習会の開催状況	13
2 性別・年齢別受講者状況	14
3 講習会開催の推移	15
4 講習会の効果	16

第 4 章 救助統計

1 救助業務の概況	17
2 救助人員の傷病程度	18
3 救助事案発生場所	18

第1章 火災統計

1 大崎管内における火災概要

火災件数

令和5年中における総火災件数は51件で前年より7件減少し、約7.2日に1件の割合で発生したことになります。

また、市町別の火災件数は、大崎市32件(62.7%)、色麻町1件(2.0%)、加美町10件(19.6%)、涌谷町4件(7.8%)、美里町4件(7.8%)となっています。(表1・表2)

過去10年間の火災件数を比較すると、過去2番目に少ない件数となります。(図1)

表1 市町別火災件数

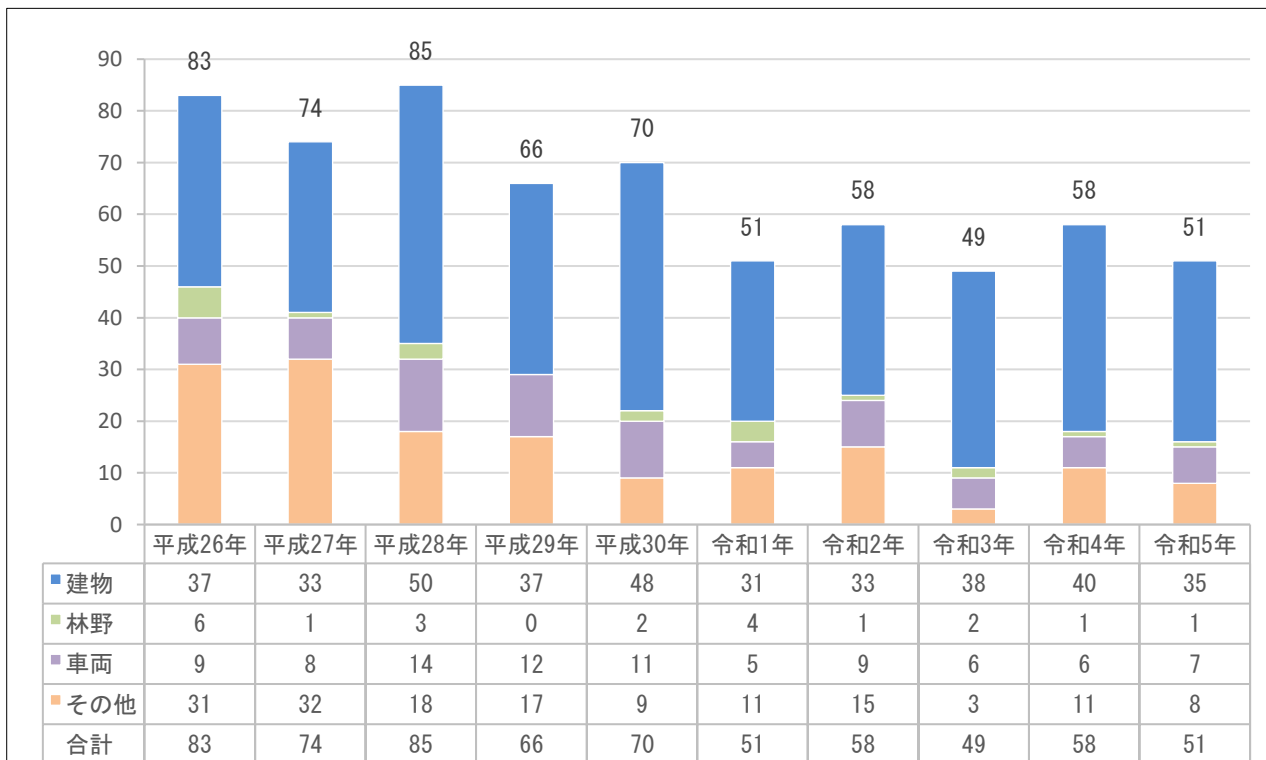
	大崎市	色麻町	加美町	涌谷町	美里町	計
令和5年	32	1	10	4	4	51
令和4年	46	3	5	2	2	58
比較	▲ 14	▲ 2	5	2	2	▲ 7

表2 市町別火災総括表

	火 災 件 数					焼 損 棟 数	り 災		死 者	負 傷 者	世 帯 数	人 口
	合計	建物	林野	車両	その他		世帯	人員				
大崎市	32	22	1	4	5	41	18	36	5	7	52,985	123,776
色麻町	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2,087	6,265
加美町	10	6	0	1	3	18	7	14	1	2	8,277	21,427
涌谷町	4	4	0	0	0	12	6	21	1	2	5,995	14,628
美里町	4	3	0	1	0	4	3	15	0	0	9,360	23,195
大崎圏全体	51	35	1	7	8	75	34	86	7	11	78,704	189,291

※世帯数・人口は令和5年12月末現在（宮城県住民基本台帳より）

図1 過去10年の火災件数及び火災種別の推移

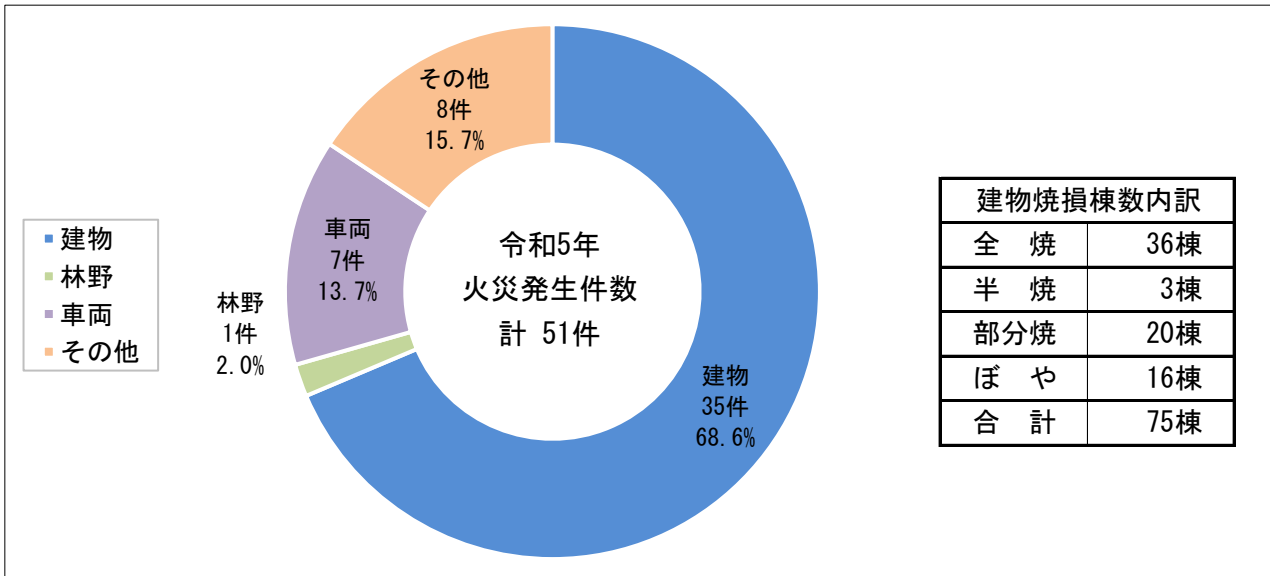


火災種別ごとの火災件数

火災種別ごとの火災件数は、建物火災が35件(68.6%)で前年より5件減少、林野火災が1件(2.0%)で同数、車両火災が7件(13.7%)で1件増加、その他火災が8件(15.7%)で3件減少となっています。

(図1・図2)

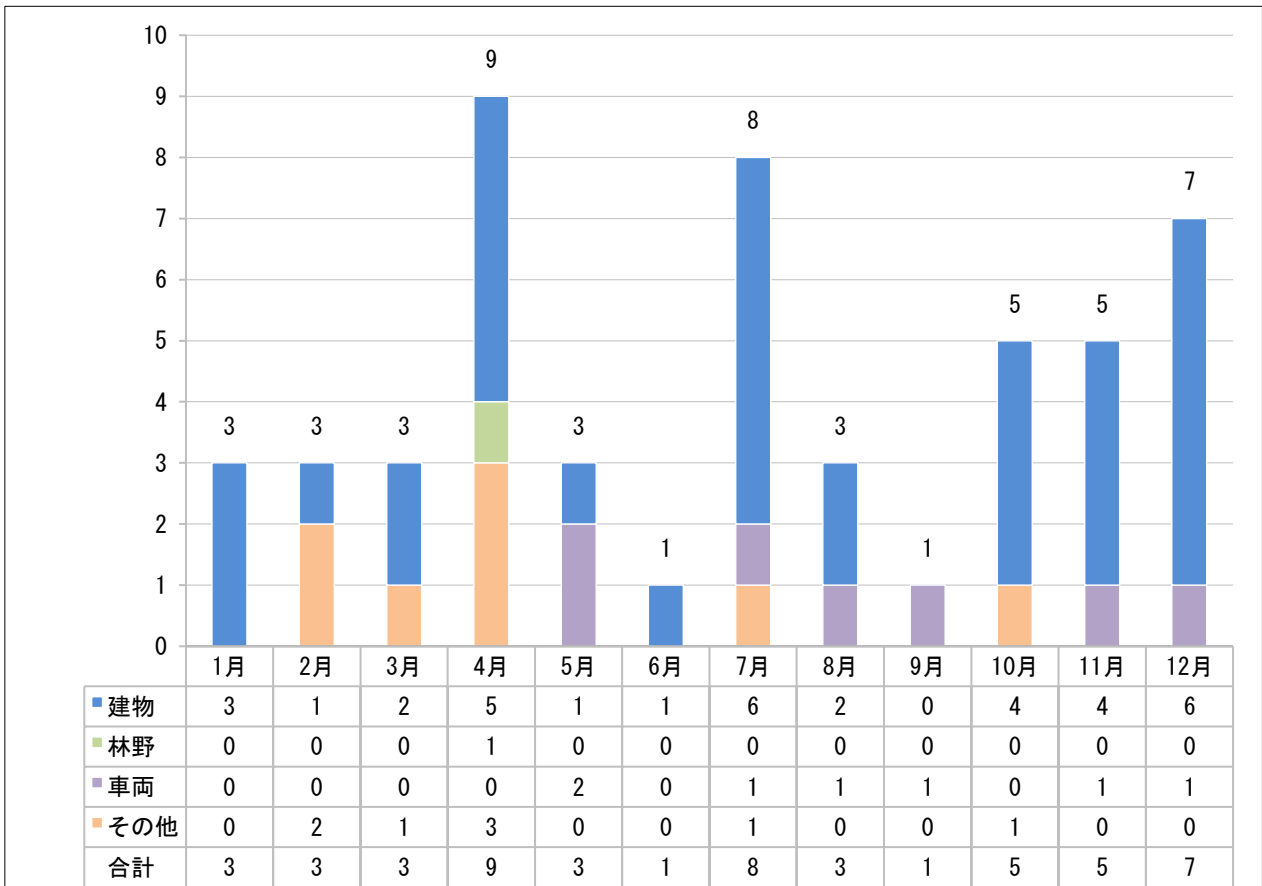
図2 火災発生状況



月別の火災件数

月別の火災件数は、4月に9件の火災が発生し全体の17.6%を占め、うち建物火災が5件発生しています。(図3)

図3 月別火災発生状況



2 死傷者等の発生状況

火災による死者数は7人で、前年より2人増加しています。火災種別ごとの死者数は、建物火災が4人、その他火災が3人となっています。

火災による負傷者は11人で、前年より3人増加しています。火災種別ごとの負傷者数は、建物火災で11人となっています。（図4・図5）

図4 火災種別別死傷者発生状況

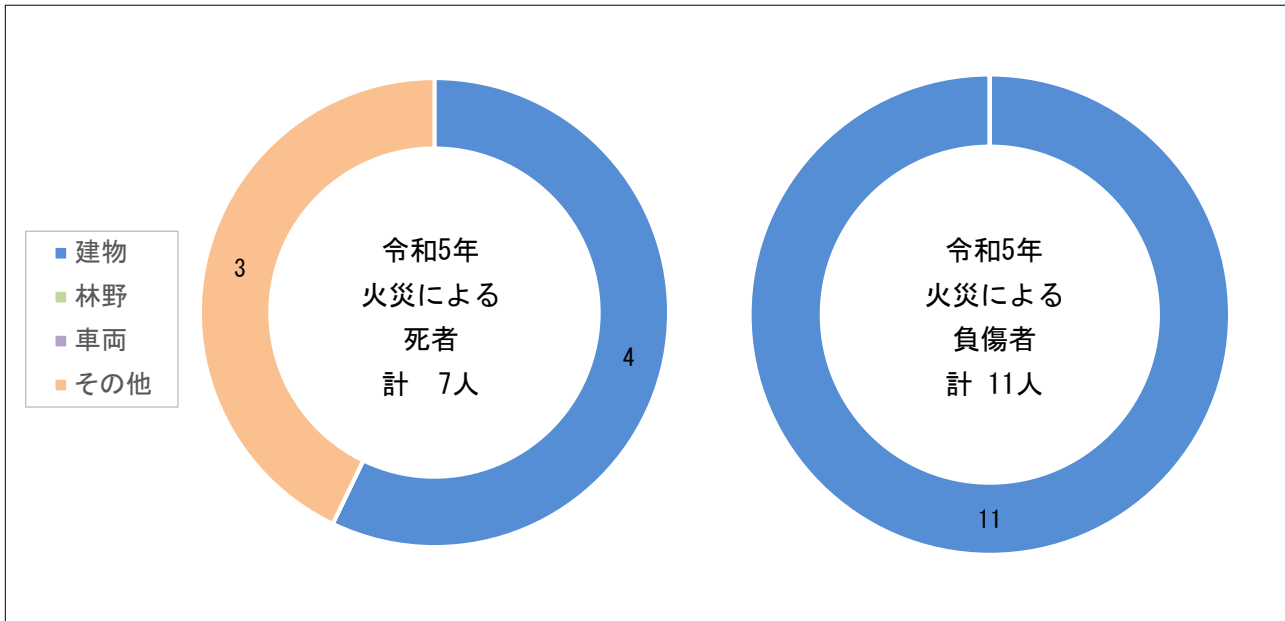
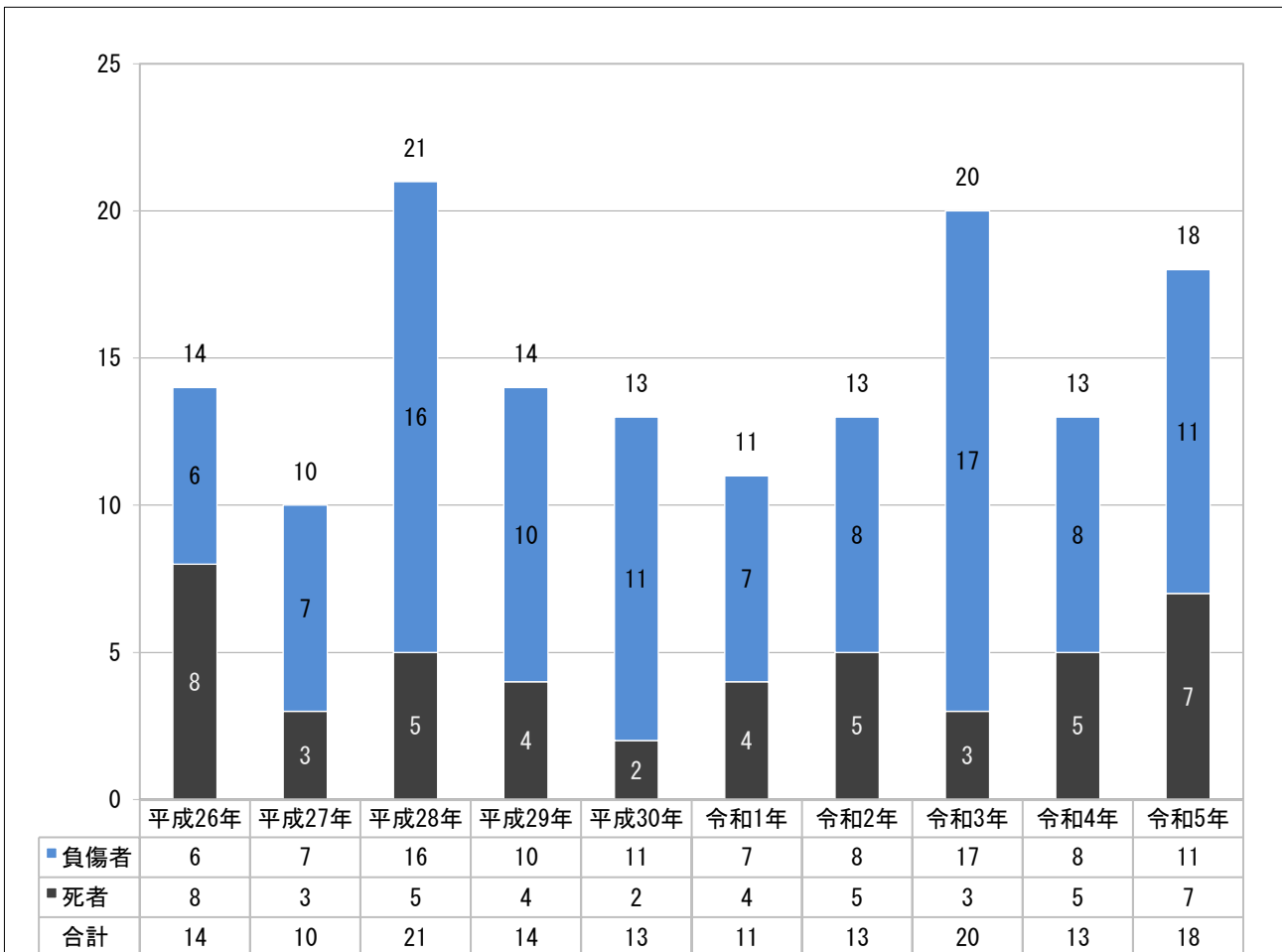


図5 過去10年間の火災による死傷者発生状況



3 損害額・出火率

火災による損害額は283,095千円で前年より30,764千円増加しました。

損害額の種別は、建物損害が277,248千円、林野損害が25千円、車両損害が3,102千円、その他損害が2,720千円となっています。

火災1件当たりの損害額は5,551千円で、一世帯当たりの損害額は3,597円、住民一人あたりでは1,496円となっています。

出火率をみると、大崎圏全体は2.69件/万人で、前年と比較すると0.33件/万人減少しています。

市町別にみると、加美町が4.67件/万人と最も高く、次いで涌谷町が2.73件/万人、大崎市が2.59件/万人、美里町が1.72件/万人、色麻町が1.60件/万人となっています。（表3・表4・図6）

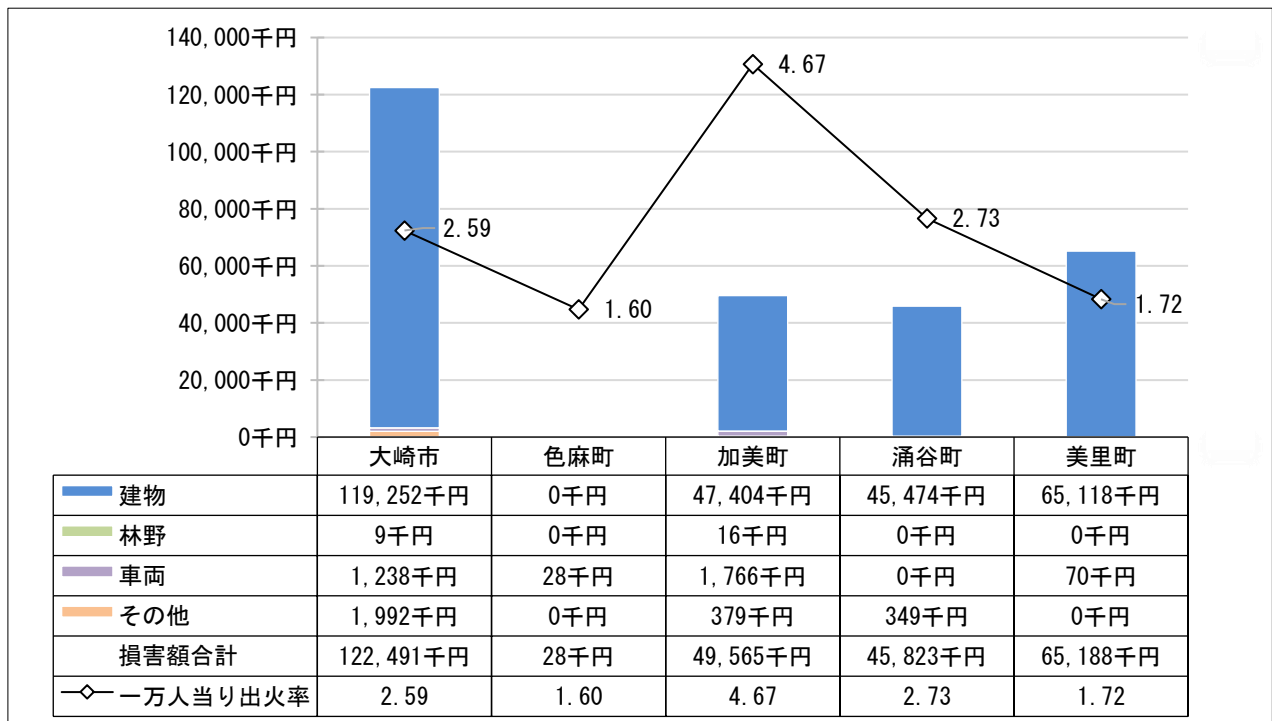
表3 火災種別損害額

	建物損害	林野損害	車両損害	その他損害	計
令和5年	277,248千円	25千円	3,102千円	2,720千円	283,095千円
令和4年	107,095千円	3千円	2,517千円	142,716千円	252,331千円
比較	170,153千円	22千円	585千円	▲ 139,996千円	30,764千円

表4 市町別損害額及び出火率

	一万人 当り 出火率 (件/万人)	損 害 額				焼 損 面 積		
		総額 (千円)	1件当たり (千円)	一世帯 当たり (円)	一人 当たり (円)	建物 面積 (㎡)	1件 当たり (㎡)	林野 面積 (a)
大崎市	2.59	122,491	3,828	2,312	990	2,833	128.8	153
色麻町	1.60	28	28	13	4	0	-	0
加美町	4.67	49,565	4,957	5,988	2,313	1,059	176.5	0
涌谷町	2.73	45,823	11,456	7,644	3,133	625	156.3	0
美里町	1.72	65,188	16,297	6,965	2,810	420	140.0	0
大崎圏全体	2.69	283,095	5,551	3,597	1,496	4,937	141.1	153

図6 市町別損害額及び出火率



4 出火原因

出火原因は、「火入れ」5件(9.8%)、「電気機器」4件(7.8%)、「たき火」4件(7.8%)、「たばこ」3件(5.9%)、「電気装置」3件(5.9%)、「放火」3件(5.9%)、「こんろ」2件(3.9%)、「ストーブ」2件(3.9%)、「電灯・電話等の配線」2件(3.9%)の順になっています。(表5)

表5 出火原因

原因	年別	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和1年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
たばこ		6	3	5	6	8	8	2	8	6	3
こんろ		0	2	6	3	4	2	1	1	3	2
ストーブ		3	6	6	1	7	3	5	2	1	2
こたつ		0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
煙突・煙道		1	2	0	1	2	2	2	2	1	0
排気管		2	0	4	4	5	1	3	0	0	1
電気機器		1	1	1	1	3	2	0	2	0	4
電灯・電話等配線		3	7	3	4	2	1	3	3	0	2
配線器具		2	0	3	1	2	3	2	1	4	1
火遊び		3	0	0	2	1	1	0	0	1	0
たき火		4	4	1	0	3	1	2	1	3	4
溶接・切断機		1	1	1	0	0	0	0	0	1	1
灯火		1	1	1	1	2	1	2	0	0	0
衝突の火花		1	1	0	0	1	0	0	0	0	0
取灰		0	2	0	1	1	0	2	2	1	2
火入れ		10	10	4	2	4	2	3	1	5	5
かまど		0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
風呂かまど		3	1	0	0	0	0	0	1	1	2
炉		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
焼却炉		0	0	1	0	0	3	2	2	0	0
ボイラー		0	0	0	0	0	1	0	0	1	0
電気装置		1	0	0	0	0	1	1	1	0	3
内燃機関		0	0	0	1	1	0	0	1	2	0
マッチ・ライター		0	2	2	3	0	1	0	0	0	0
放火		5	6	11	6	2	3	8	3	4	3
放火の疑い		7	4	5	7	9	2	3	0	0	1
その他		15	10	10	14	8	7	13	8	15	11
不明		14	11	20	8	5	6	4	10	8	4
合計		83	74	85	66	70	51	58	49	58	51

第2章 救急統計

1 大崎管内における救急業務の実施状況

救急出動件数

令和5年における救急出動件数は、10,151件(前年比230件増)で搬送人員が8,902人(前年比180人増)となっております。これは、月平均で約845.9件、一日平均で約27.8件(51.8分に1件)の割合で救急隊が出動し、管内の約21.3人に1人(約8.8世帯に1人)が救急隊により搬送されたこととなります。(表6・図7)

※大崎管内の世帯数及び人口：78,704世帯,189,291人 (令和5年12月)

2 事故種別出動件数及び搬送人員状況

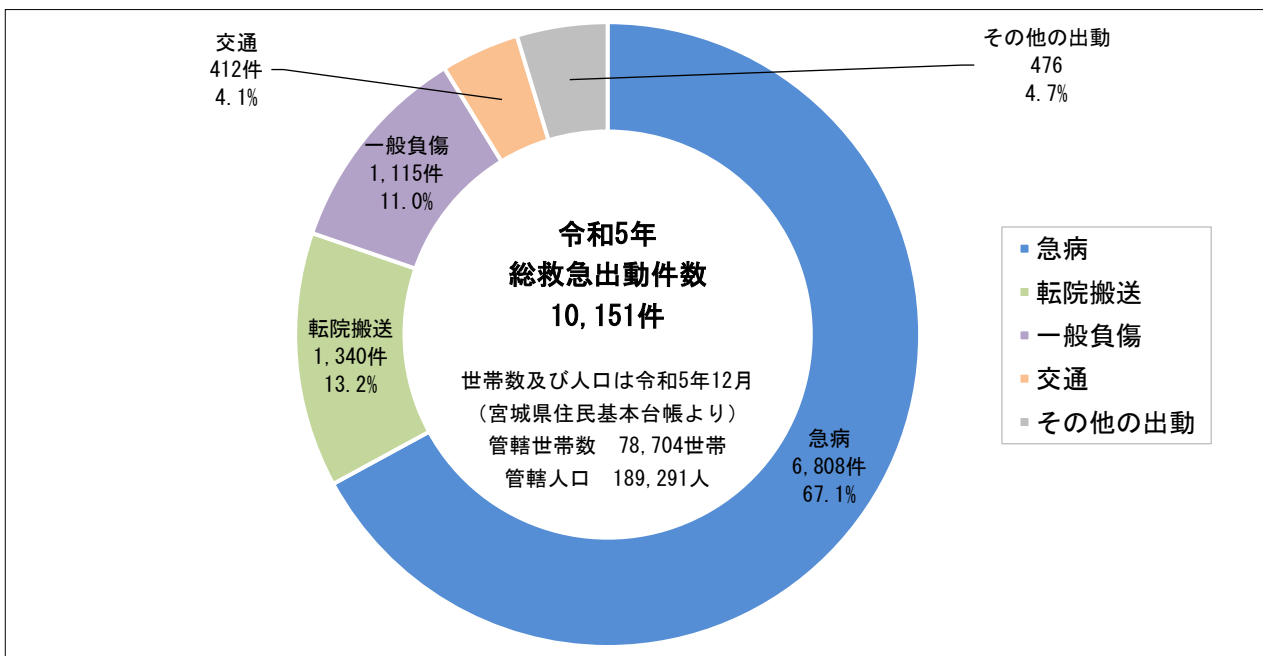
事故種別ごとの出動件数は、急病が6,808件(前年比383件増)と全出動件数の67.1%を占め、次いで転院搬送の1,340件(前年比37件減)、一般負傷の1,115件(前年比74件減)、交通の412件(前年比27件減)の順となりました。

搬送人員は、急病5,962人(前年比327人増)、転院搬送1,334人(前年比36人減)、一般負傷988人(前年比102人減)、交通380人(前年比19人減)の順となりました。(表6・図7)

表6 救急出動状況

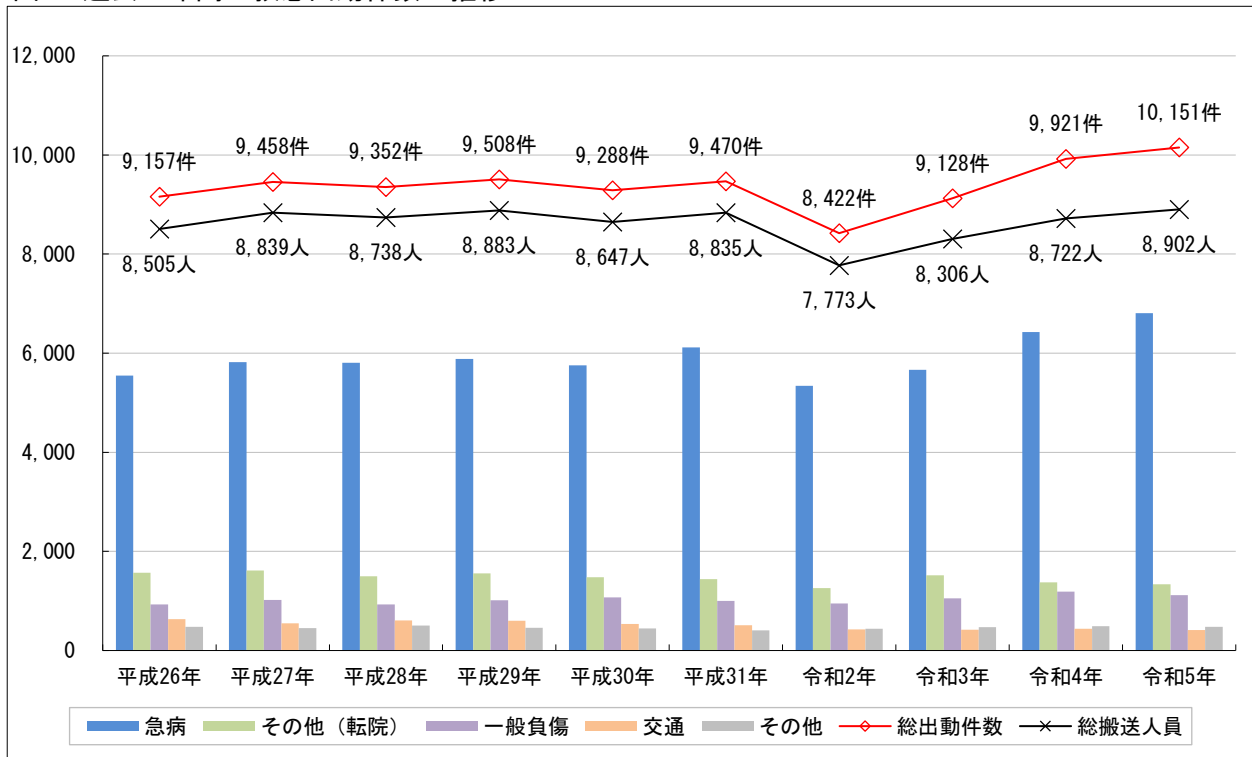
区分	年別比較	合計	火災	自然災害	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他			
													転院搬送	医師搬送	資器材搬送	その他
出動件数	令和5年	10,151	48	0	1	412	89	61	1,115	25	92	6,808	1,340	0	21	139
	令和4年	9,921	57	10	0	439	87	40	1,189	33	81	6,425	1,377	0	22	161
	前年比	230	▲9	▲10	1	▲27	2	21	▲74	▲8	11	383	▲37	0	▲1	▲22
不搬送件数	令和5年	1,302	37	0	1	75	2	5	127	5	32	852	6	0	21	139
	令和4年	1,240	50	3	0	73	2	2	99	7	24	794	7	0	22	157
	前年比	62	▲13	▲3	1	2	0	3	28	▲2	8	58	▲1	0	▲1	▲18
搬送人員	令和5年	8,902	12	0	0	380	88	56	988	22	60	5,962	1,334	0	0	0
	令和4年	8,722	7	7	0	399	88	38	1,090	26	57	5,635	1,370	0	0	5
	前年比	180	5	▲7	0	▲19	0	18	▲102	▲4	3	327	▲36	0	0	▲5

図7 救急出動状況



過去10年間の救急出動件数を比較すると、令和5年は統計開始以降では過去最多となりました。
 (図8)

図8 過去10年間の救急出動件数の推移



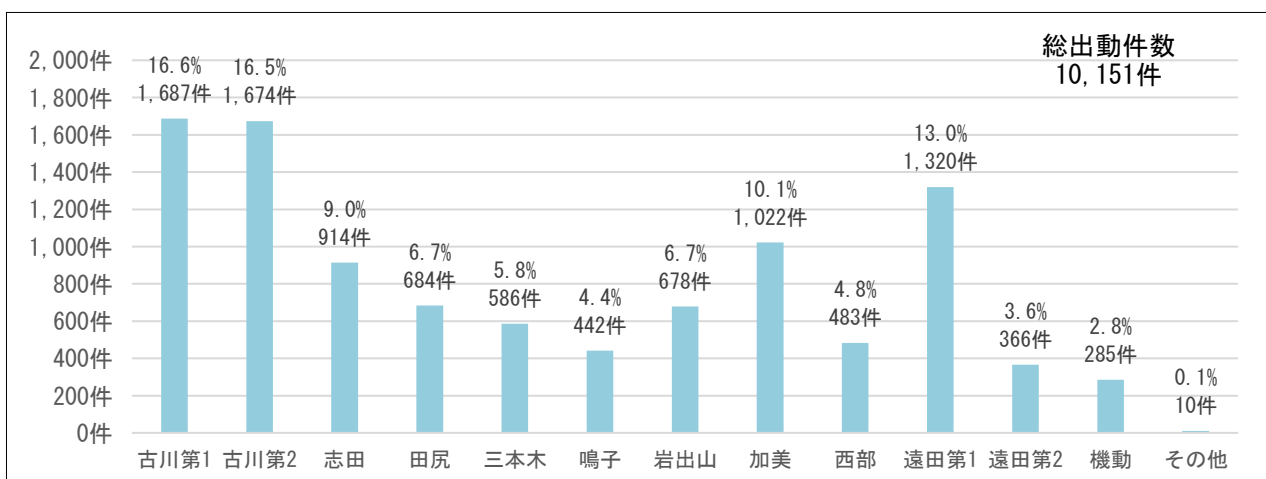
3 救急隊別出動状況

救急隊別の出動状況を前年比で見ると、岩出山救急隊が71件増、田尻救急隊が42件増、西部救急隊が33件増、遠田第一救急隊が20件増等、合計で230件増加しました。令和5年4月から平日日中のみ試行運用を開始した本部機動救急隊は285件の出動となりました。(表7・図9)

表7 救急隊別出動状況

	古川第1	古川第2	志田	田尻	三本木	鳴子	岩出山	加美	西部	遠田第1	遠田第2	機動	その他	合計
令和5年	1,687	1,674	914	684	586	442	678	1,022	483	1,320	366	285	10	10,151
令和4年	1,741	1,718	921	642	663	458	607	1,031	450	1,300	379	0	11	9,921
比較	▲ 54	▲ 44	▲ 7	42	▲ 77	▲ 16	71	▲ 9	33	20	▲ 13	285	▲ 1	230

図9 救急隊別出動状況

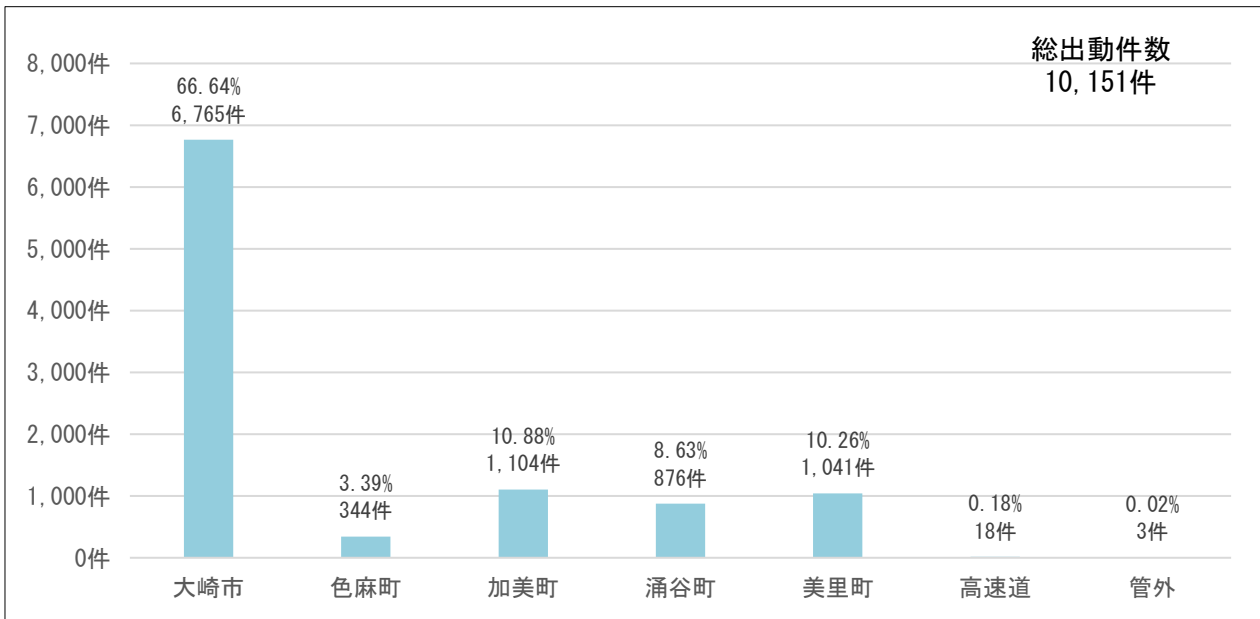


4 市町別出動状況

市町別の出動件数は、大崎市が6,765件、色麻町が344件、加美町が1,104件、涌谷町が876件、美里町が1,041件となりました。

また、高速道(東北自動車道)に18件、管外への出動は3件でした。(図10)

図10 市町別救急出動件数



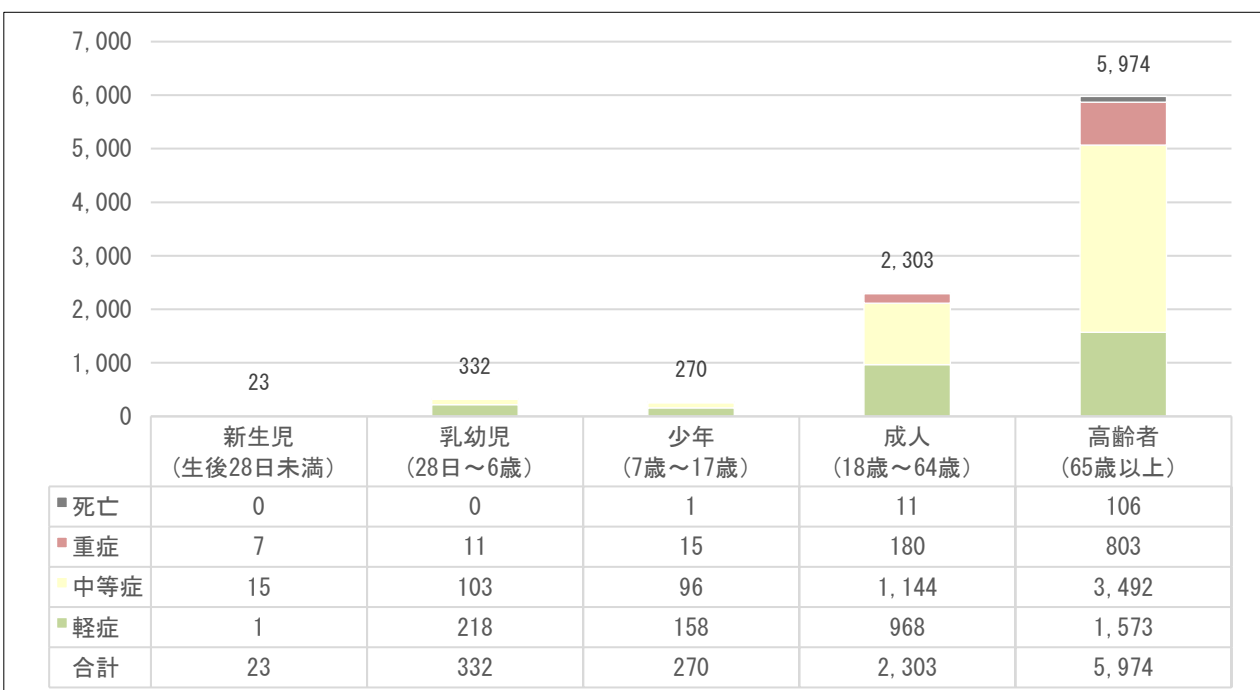
5 傷病程度別、年齢別搬送人員状況

搬送した8,902人の傷病程度は、死亡118人、重症1,016人、中等症4,850人、軽症2,918人と診断されています。

死亡、重症、中等症の傷病者の割合は全体の約67.2%、入院加療を必要としない軽症の傷病者の割合は32.8%となります。

また、年齢別では高齢者(65歳以上)が全体の約67.1%を占めました。(図11)

図11 傷病程度別・年齢別搬送人員状況



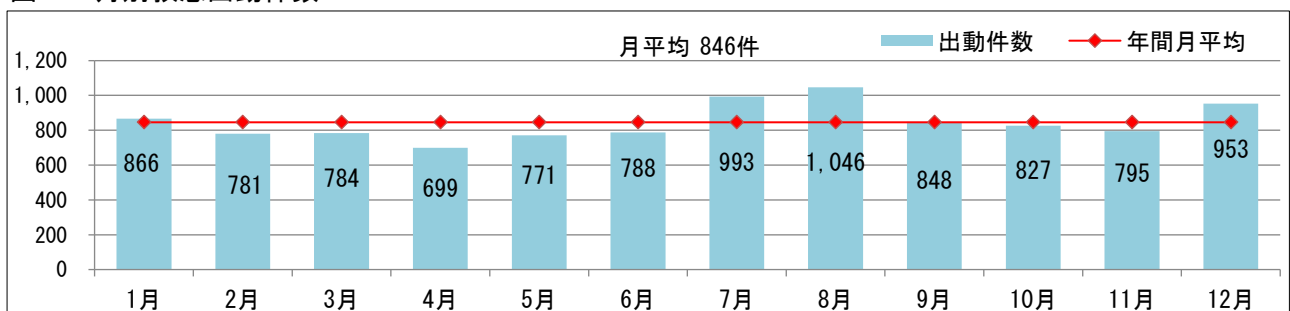
6 月別救急出動状況

救急隊の1か月の平均出動件数は約846件で、最も多い月は8月で1,046件、次いで7月の993件となっています。（表8・図12）

表8 月別及び事故種別毎出動・搬送等状況

月別	区分	合計	火災	自然災害	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他			
													転院搬送	医師搬送	資器材搬送	その他
1月	出動件数	866	4	0	0	26	8	2	99	1	8	602	108	0	0	8
	搬送件数	727	2	0	0	20	8	2	85	0	4	499	107	0	0	0
	搬送人員	729	2	0	0	22	8	2	85	0	4	499	107	0	0	0
2月	出動件数	781	2	0	0	19	3	4	84	0	8	529	117	0	0	15
	搬送件数	679	0	0	0	16	3	4	74	0	5	460	117	0	0	0
	搬送人員	681	0	0	0	18	3	4	74	0	5	460	117	0	0	0
3月	出動件数	784	3	0	0	34	6	1	76	0	5	530	114	0	8	7
	搬送件数	694	0	0	0	31	6	1	70	0	3	470	113	0	0	0
	搬送人員	700	0	0	0	36	6	1	70	0	3	471	113	0	0	0
4月	出動件数	699	6	0	1	22	6	6	74	3	5	471	96	0	0	9
	搬送件数	620	4	0	0	20	4	6	66	2	5	417	96	0	0	0
	搬送人員	622	5	0	0	21	4	6	66	2	5	417	96	0	0	0
5月	出動件数	771	2	0	0	52	6	6	85	1	10	497	100	0	0	12
	搬送件数	681	0	0	0	46	6	6	76	1	8	438	100	0	0	0
	搬送人員	691	0	0	0	55	6	6	76	1	8	439	100	0	0	0
6月	出動件数	788	1	0	0	29	7	7	100	3	9	513	112	0	0	7
	搬送件数	701	0	0	0	20	7	7	86	3	4	464	110	0	0	0
	搬送人員	703	0	0	0	22	7	7	86	3	4	464	110	0	0	0
7月	出動件数	993	5	0	0	43	9	9	85	3	10	677	138	0	1	13
	搬送件数	863	2	0	0	31	9	8	70	2	9	594	138	0	0	0
	搬送人員	868	2	0	0	35	10	8	70	2	9	594	138	0	0	0
8月	出動件数	1,046	5	0	0	40	19	5	106	3	1	756	92	0	1	18
	搬送件数	913	1	0	0	37	19	4	101	3	0	656	92	0	0	0
	搬送人員	918	1	0	0	41	19	4	101	3	0	657	92	0	0	0
9月	出動件数	848	1	0	0	29	7	7	91	3	11	576	108	0	4	11
	搬送件数	744	0	0	0	21	7	6	86	2	5	510	107	0	0	0
	搬送人員	746	0	0	0	22	7	6	86	2	5	511	107	0	0	0
10月	出動件数	827	4	0	0	40	3	6	115	2	5	522	113	0	3	14
	搬送件数	721	0	0	0	34	3	6	102	2	4	458	112	0	0	0
	搬送人員	728	0	0	0	39	3	6	102	3	4	459	112	0	0	0
11月	出動件数	795	6	0	0	36	8	4	90	2	5	530	103	0	0	11
	搬送件数	693	0	0	0	30	8	3	76	1	4	468	103	0	0	0
	搬送人員	696	0	0	0	33	8	3	76	1	4	468	103	0	0	0
12月	出動件数	953	9	0	0	42	7	4	110	4	15	605	139	0	4	14
	搬送件数	813	2	0	0	31	7	3	96	4	9	522	139	0	0	0
	搬送人員	820	2	0	0	36	7	3	96	5	9	523	139	0	0	0
合計	出動件数	10,151	48	0	1	412	89	61	1,115	25	92	6,808	1,340	0	21	139
	搬送件数	8,849	11	0	0	337	87	56	988	20	60	5,956	1,334	0	0	0
	搬送人員	8,902	12	0	0	380	88	56	988	22	60	5,962	1,334	0	0	0

図12 月別救急出動件数



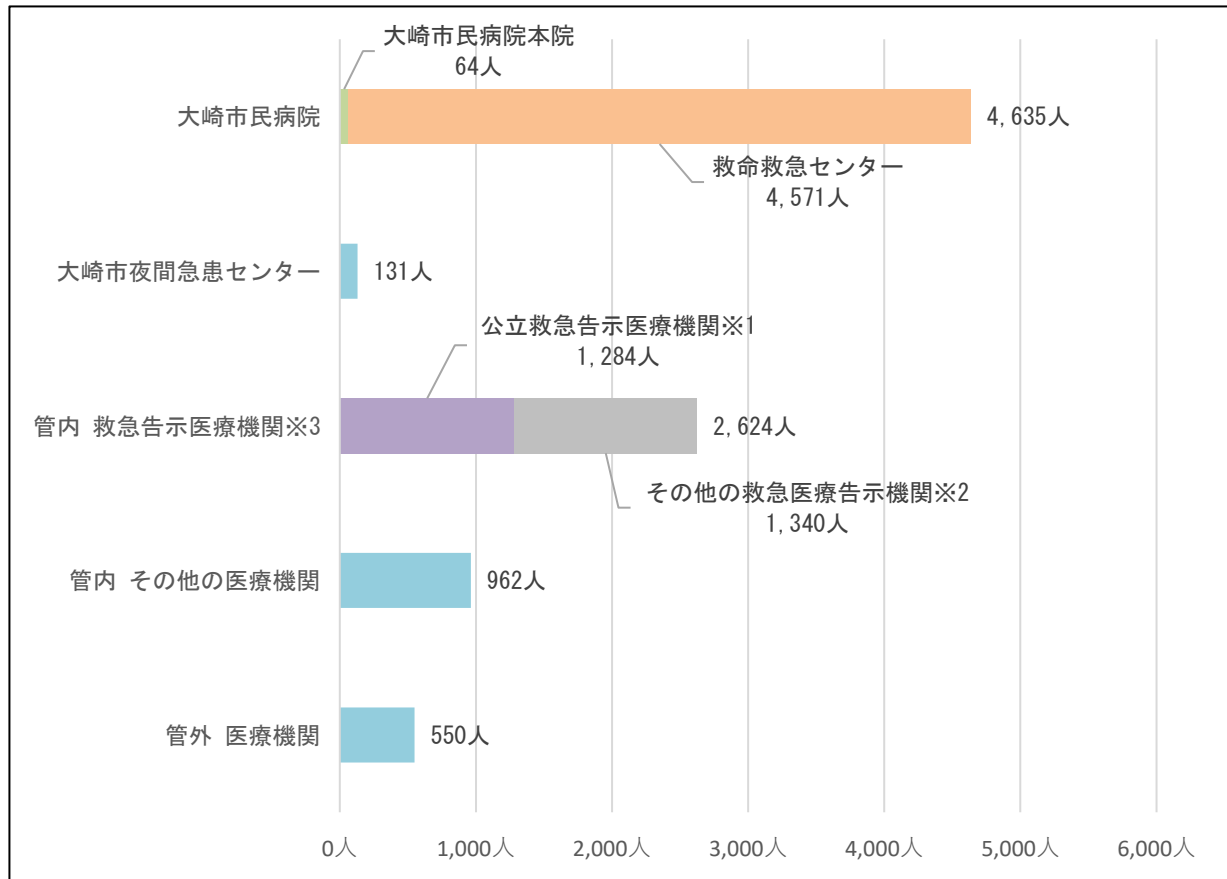
7 収容先別搬送人員状況

収容先別の搬送人員は、大崎市民病院(救命救急センター含む)が最も多い4,635人で、その割合は全搬送人員の52.1%となっています。

また、大崎市夜間急患センターへ131人が搬送されました。

大崎市民病院を除く大崎管内の救急告示医療機関には2,624人が搬送され、そのうち公立の救急告示医療機関には1,284人が搬送されました。(図13)

図13 収容先別搬送人員状況



※1 大崎市民病院鳴子温泉分院, 大崎市民病院岩出山分院, 大崎市民病院鹿島台分院, 涌谷町国民健康保険病院, 美里町立南郷病院, 公立加美病院

※2 古川民主病院, 古川星陵病院, 三浦病院, 徳永整形外科病院, みやぎ北部循環器科, 東泉堂病院

※3 救急医療告示機関「救急病院等を定める省令」(昭和39年厚生省令第8号)第1条による医療機関

8 ドクターヘリ要請件数状況

令和5年における大崎消防本部のドクターヘリ要請件数は49件で、救急隊と連携し現場活動を実施しているのは38件となり、11件は救急隊の現場判断等によりキャンセルとなっています。(表9)

表9 ドクターヘリ要請件数

出動先	大崎市							色麻町	加美町			涌谷町	美里町		合計
	古川	松山	三本木	鹿島台	岩出山	鳴子	田尻		中新田	小野田	宮崎		小牛田	南郷	
現場活動	0件	0件	0件	5件	4件	13件	0件	1件	0件	3件	6件	6件	0件	0件	38件
キャンセル	0件	0件	0件	0件	2件	1件	3件	0件	0件	0件	1件	3件	0件	1件	11件
件	28件							1件	10件			9件	1件		49件

9 救急隊員の行った救急処置状況

令和5年の搬送人員8,902人のうち、救急隊員が応急処置を行った傷病者は8,902人で、救急処置件数は43,108件となっています。（表10）

表10 救急隊員の行った救急処置件数

事故種別	傷病程度	応急処置対象人員	止血	固定	人工呼吸	心マッサージ		心肺蘇生	うち自動	酸素吸入	気道確保	経鼻エアウェイ	喉頭鏡・鉗子等	ラリソゲアルマスク等	気管挿管	保温	被覆	小計
							うち自動											
急病	死亡	110	0	1	3	0	0	110	88	110	110	0	0	56	1	66	0	400
	重症	626	3	7	11	0	0	103	89	300	162	4	1	70	2	236	4	826
	中等症	3,161	14	24	6	0	0	1	0	572	53	0	1	0	0	951	16	1,637
	軽症	2,065	36	14	0	0	0	0	0	108	4	0	0	0	0	571	10	743
	計	5,962	53	46	20	0	0	214	177	1,090	329	4	2	126	3	1,824	30	3,606
交通事故	死亡	1	0	1	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	1	0	5
	重症	33	7	24	0	0	0	4	3	13	6	0	0	3	0	13	8	75
	中等症	154	18	93	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	54	34	203
	軽症	192	21	87	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	36	32	178
	計	380	46	205	0	0	0	5	3	20	7	0	0	3	0	104	74	461
一般負傷	死亡	1	0	0	0	0	0	1	1	1	1	0	1	0	0	0	0	3
	重症	73	4	16	2	0	0	10	7	18	13	0	5	5	3	28	8	99
	中等症	493	62	105	0	0	0	0	0	35	3	0	1	0	0	155	79	439
	軽症	421	83	54	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	108	110	358
	計	988	149	175	2	0	0	11	8	57	17	0	7	5	3	291	197	899
上記以外	死亡	6	0	3	0	0	0	6	3	6	6	0	0	2	0	0	0	21
	重症	284	4	17	4	0	0	8	8	98	17	1	0	5	0	96	7	251
	中等症	1,042	13	29	0	0	0	0	0	242	4	0	0	0	0	328	19	635
	軽症	240	14	14	0	0	0	0	0	19	0	0	0	0	0	53	15	115
	計	1,572	31	63	4	0	0	14	11	365	27	1	0	7	0	477	41	1,022
合計	死亡	118	0	5	3	0	0	118	92	118	118	0	1	58	1	67	0	429
	重症	1,016	18	64	17	0	0	125	107	429	198	5	6	83	5	373	27	1,251
	中等症	4,850	107	251	6	0	0	1	0	853	60	0	2	0	0	1,488	148	2,914
	軽症	2,918	154	169	0	0	0	0	0	132	4	0	0	0	0	768	167	1,394
	計	8,902	279	489	26	0	0	244	199	1,532	380	5	9	141	6	2,696	342	5,988

事故種別	傷病程度	応急処置対象人員	在宅療法継続			シヨックパンツによる血圧の保持	除細動	静脈路確保 (CPA前)	静脈路確保 (CPA後)	薬剤投与	血糖測定	ブドウ糖投与	血圧測定	聴診器による心音・呼吸音の聴取	血中酸素飽和度の測定	心電図	伝送	その他の応急処置	小計	総計	
			※A	※B	※C																
急病	死亡	110	2	1	1	0	5	0	41	23	1	0	12	92	17	98	0	95	386	786	
	重症	626	9	1	1	7	10	15	53	38	29	0	539	293	543	592	39	598	2,719	3,545	
	中等症	3,161	35	0	4	31	0	1	17	1	0	81	16	3,118	1,139	3,158	2,962	173	3,161	13,689	15,326
	軽症	2,065	7	0	1	6	0	0	2	0	16	5	1,967	580	2,064	1,765	59	2,062	8,468	9,211	
	計	5,962	53	2	7	44	0	16	34	95	61	127	21	5,636	2,104	5,782	5,417	271	5,916	25,262	28,868
交通事故	死亡	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	2	7	
	重症	33	0	0	0	0	0	0	4	3	1	0	29	20	29	32	0	33	151	226	
	中等症	154	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	154	84	154	123	0	154	669	872	
	軽症	192	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	184	77	192	125	0	192	770	948	
	計	380	0	0	0	0	0	0	4	3	1	0	367	182	375	281	0	379	1,592	2,053	
一般負傷	死亡	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	3	6	
	重症	73	0	0	0	0	0	2	8	6	1	0	67	19	67	52	0	72	294	393	
	中等症	493	0	0	0	0	0	6	0	0	3	0	491	98	493	415	0	492	1,998	2,437	
	軽症	421	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0	400	78	418	316	0	419	1,633	1,991	
	計	988	1	0	0	1	0	8	8	6	5	0	958	196	978	784	0	984	3,928	4,827	
上記以外	死亡	6	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1	3	3	6	0	6	21	42	
	重症	284	0	0	0	0	0	1	5	4	1	0	269	48	275	268	8	278	1,149	1,400	
	中等症	1,042	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,020	196	1,040	938	36	1,033	4,227	4,862	
	軽症	240	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	235	40	240	187	8	238	941	1,056	
	計	1,572	0	0	0	0	0	2	6	5	1	0	1,525	287	1,558	1,399	52	1,555	6,338	7,360	
合計	死亡	118	2	1	1	0	5	0	42	24	1	0	13	97	20	106	0	102	412	841	
	重症	1,016	9	1	1	7	10	18	70	51	32	0	904	380	914	944	47	981	4,313	5,564	
	中等症	4,850	35	0	4	31	0	1	23	1	0	84	16	4,783	1,517	4,845	4,438	209	4,840	20,583	23,497
	軽症	2,918	8	0	1	7	0	0	3	0	0	17	5	2,786	775	2,914	2,393	67	2,911	11,812	13,206
	計	8,902	54	2	7	45	0	16	44	113	75	134	21	8,486	2,769	8,693	7,881	323	8,834	37,120	43,108

在宅療法継続欄

- ※Aには、在宅中心静脈栄養管理・在宅化学療法等により点滴が施されている傷病者に対して応急処置等を行った件数
- ※Bには、気管切開孔又は気管瘻・人工肛門等の外瘻が施されている傷病者に対して応急処置を行った件数
- ※Cには、※A・※B以外の在宅療法継続中の傷病者に対して応急処置を行った件数

10 PA連携出動状況

PA連携とは、消防ポンプ自動車（Pumper）が、救急要請内容により出動し、救急車（Ambulance）の活動を支援する連携活動のことで、双方の頭文字から「PA」と名前をつけたものです。

当消防本部では、平成18年2月1日から心肺機能停止傷病者等に、いち早く応急処置を行うため、直近のポンプ車が救急車より先に到着すると判断した場合、ポンプ車隊を出動させ、救急活動を支援する連携活動を行っています。

令和5年におけるPA連携出動件数は42件で前年比5件の減少となります。発生場所は、住居が29件と最も多く全出動件数の69.0%となっています。（図14・図15・図16）

図14 PA連携署所別ポンプ車出動状況

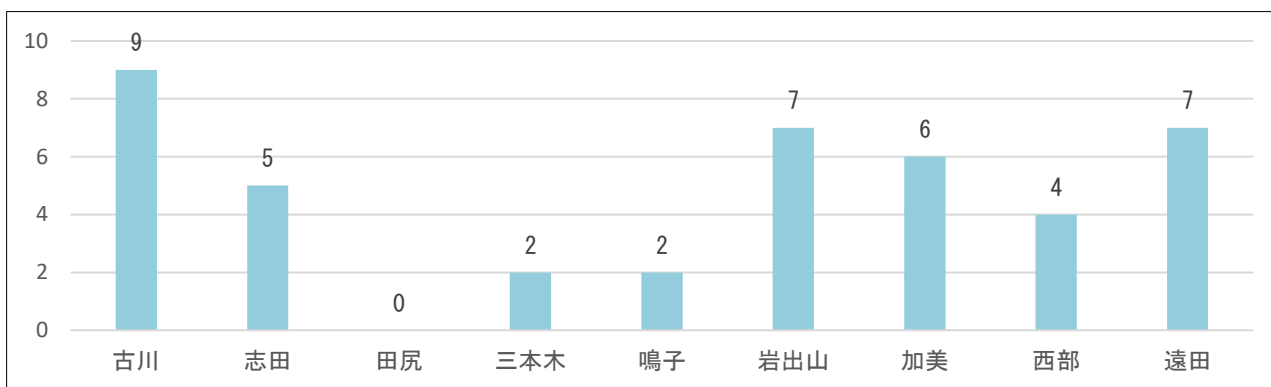


図15 PA連携発生場所

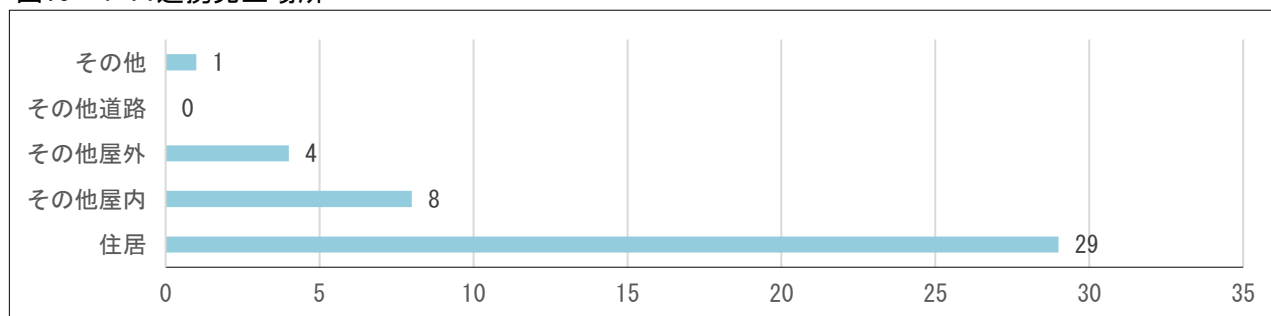
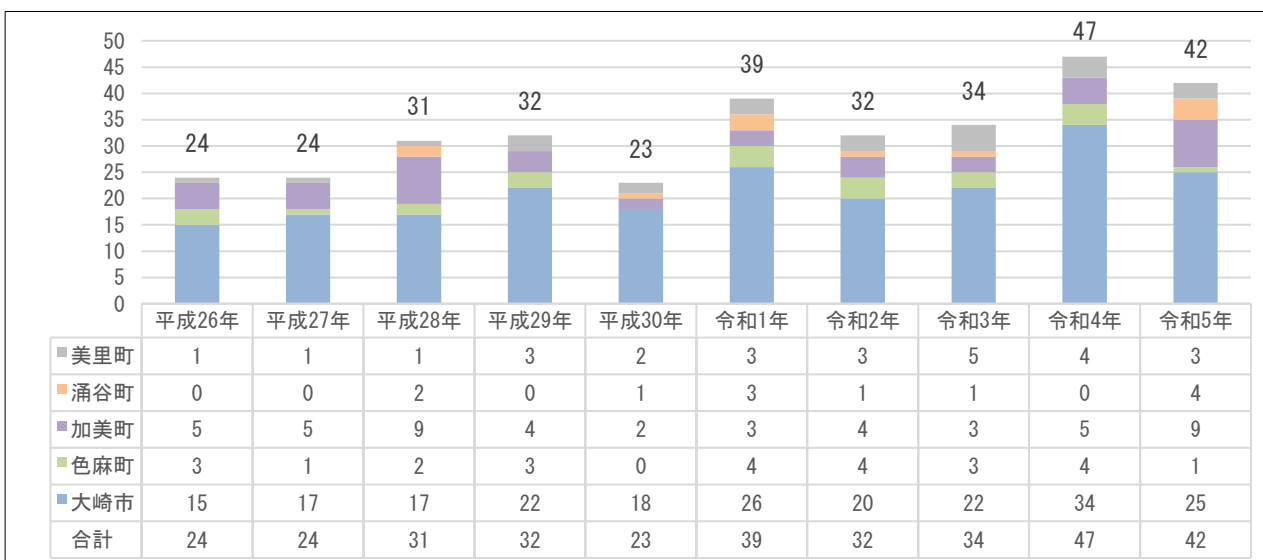


図16 過去10年間のPA連携出動件数



第3章 応急手当講習会等の概要

1 講習会の開催状況

令和5年における応急手当講習会等実施状況は、昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症の感染を避けた新しい講習スタイルにより、感染防止に留意しながらの講習となりましたが、地域住民、学校、事業所等を対象に、普通救命講習132回(2,067人)、救命入門コース76回(1,468人)、応急手当講習81回(1,936人)、合計295回を開催することができ、5,559人が受講しております。

また、令和2年から新しい講習スタイルとして、WEB講習（e-ラーニング）を導入いたしました。インターネット上で応急手当の重要性や心肺蘇生法等の知識を事前に学習していただくことで、上級救命講習及び普通救命講習の座学講習を1時間短縮することができるようになっております。（表11）

表11 講習会別受講人員

種 別	開催回数	受講人員	内 容
普通救命講習会	132回	2,067人	心肺蘇生法（成人）・大出血時の止血等の講習 （講習時間3時間）
うちWEB講習	61回	884人	（講習時間2時間）
上級救命講習会	5回	82人	心肺蘇生法（成人・小児・乳児）・大出血時の止血・傷病者管理・外傷手当・搬送法等の講習（講習時間8時間）
普及員講習会	1回	6人	事業所・地域団体等の従業員に対して、普通救命講習を指導できるための講習 （講習時間24時間）
救命入門コース	76回	1,468人	対象者を小学生中高学年以上（概ね10歳以上）とし、カリキュラムは胸骨圧迫とAEDの使用法
応急手当講習会	81回	1,936人	病気・ケガ・事故等の時、医師の治療を受けるまでの簡単な応急手当の講習
合 計	295回	5,559人	

2 性別・年齢別受講者の状況

受講者の年齢構成は、10歳代が最も多く、次いで40歳代、30歳代の順となっています。

性別構成は、男性が1,595人（44.0%）、女性が2,028人（56.0%）となっています。

男女共に中高生の普通救命講習会の参加者が多い結果となりました。（表12）

表12 講習会別・性別・年齢別受講人員

種別	年齢	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	合計
	性別									
普通救命講習会	男	352	112	121	193	119	104	32	2	1,035
	女	452	100	126	132	106	84	32	0	1,032
	合計	804	212	247	325	225	188	64	2	2,067
上級救命講習会	男	4	2	3	4	4	3	3	0	23
	女	38	8	4	8	0	1	0	0	59
	合計	42	10	7	12	4	4	3	0	82
普及員講習会	男	0	0	0	0	4	0	1	0	5
	女	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	合計	0	0	0	0	5	0	1	0	6
救命入門コース	男	212	53	73	69	63	57	5	0	532
	女	174	139	158	183	168	91	20	3	936
	合計	386	192	231	252	231	148	25	3	1,468
合計	男	568	167	197	266	190	164	41	2	1,595
	女	664	247	288	323	275	176	52	3	2,028
	合計	1,232	414	485	589	465	340	93	5	3,623

3 講習会開催の推移

平成9年から開催してきた各種救命講習会の総受講者数は、令和5年までの27年間で80,924人となっています。（表13）

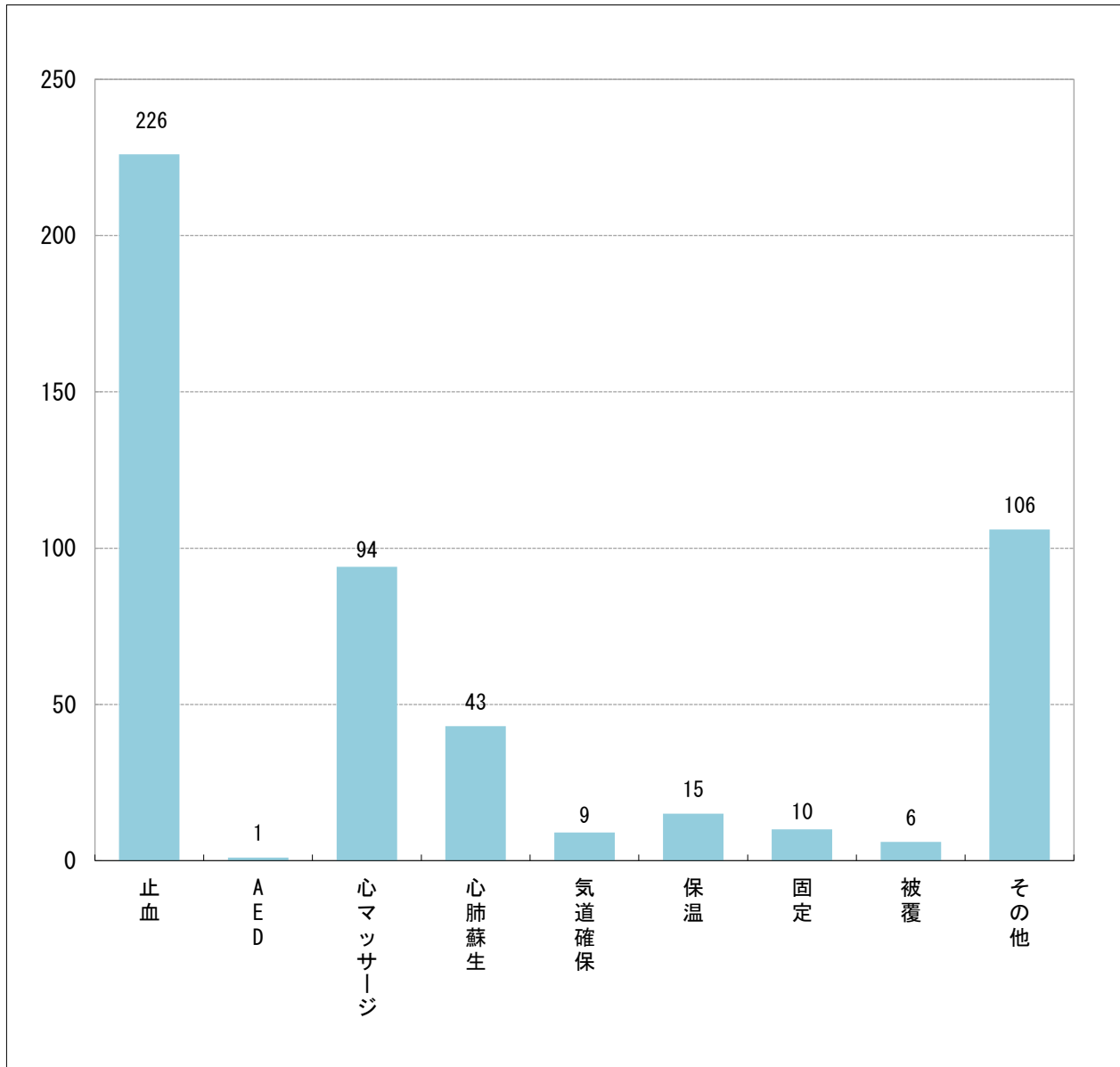
表13 講習会別開催回数・受講人員（平成9年～令和5年）

種別	年別	回数	性別		合計
			男性	女性	
普通救命講習会	平成9～23年	1,925	20,088	21,399	41,487
	平成24年	152	1,455	1,508	2,963
	平成25年	194	2,034	1,965	3,999
	平成26年	172	1,753	1,772	3,525
	平成27年	173	1,556	1,664	3,220
	平成28年	146	1,380	1,270	2,650
	平成29年	185	1,978	1,632	3,610
	平成30年	150	1,445	1,506	2,951
	令和元年	149	1,592	1,359	2,951
	令和2年	103	797	543	1,340
	令和3年	84	500	463	963
	令和4年	21	104	93	197
	令和5年	132	1,035	1,032	2,067
小計		3,586	35,717	36,206	71,923
上級救命講習会	平成11～23年	78	828	1,608	2,436
	平成24年	7	54	123	177
	平成25年	5	77	64	141
	平成26年	6	47	100	147
	平成27年	7	56	96	152
	平成28年	8	88	113	201
	平成29年	6	76	92	168
	平成30年	7	47	94	141
	令和元年	5	28	80	108
	令和2年	1	8	9	17
	令和3年	0	0	0	0
	令和4年	1	5	1	6
令和5年	5	23	59	82	
小計		136	1,337	2,439	3,776
普及員講習会	平成12～23年	15	139	215	354
	平成24年	3	8	10	18
	平成25年	1	3	3	6
	平成26年	1	3	6	9
	平成27年	2	17	2	19
	平成28年	1	5	2	7
	平成29年	1	6	2	8
	平成30年	2	2	11	13
	令和元年	1	5	4	9
	令和2年	0	0	0	0
	令和3年	0	0	0	0
	令和4年	0	0	0	0
令和5年	1	5	1	6	
小計		28	193	256	449
救命入門コース	平成24～25年	4	116	137	253
	平成26年	8	120	143	263
	平成27年	6	125	113	238
	平成28年	9	147	170	317
	平成29年	11	206	177	383
	平成30年	9	125	118	243
	令和元年	40	452	502	954
	令和2年	22	154	203	357
	令和3年	17	95	124	219
	令和4年	5	31	50	81
	令和5年	76	532	936	1,468
小計		207	2,103	2,673	4,776
合計		3,957	39,350	41,574	80,924

4 講習会の効果

これまで実施してきた応急手当講習会等の効果として、令和5年における救急出動のうち、救急隊が傷病者のもとへ到着するまでに家族や友人、さらには傷病者の近くにいた住民等による応急手当が510件実施されました。（図16）

図16 住民の行った応急処置件数



また、救急隊が搬送した245人の心肺機能停止傷病者に対して、住民等により心肺蘇生または心マッサージが実施された傷病者は129人(52.7%)で、そのうち救急隊が傷病者を医師に引き継いだ時点で9人(7.0%)の方の心拍が再開しました。

第4章 救助統計

1 救助業務の概況

令和5年における救助出動件数は48件で前年に比べ11件減少し、救助人員は32人で前年に比べ12人減少となっています。これは、約7.6日に1件の割合で出動したことになります。地区別の出動件数は、大崎市36件、色麻町2件、加美町3件、涌谷町2件、美里町5件となっています。（表14、表15）

事故種別ごとでは、「交通事故」が26件と出動件数全体の54.2%を占め最も多く、続いて「その他」が13件（27.1%）、「建物事故」が7件（14.6%）となっています。（図17・図18）

表14 地区別救助出動件数前年比較（単位：件）

	大崎市	色麻町	加美町	涌谷町	美里町	管外	高速道 (管内)	高速道 (管外)	合計
令和5年	36	2	3	2	5	0	0	0	48
令和4年	39	4	8	5	2	0	1	0	59
比較	▲ 3	▲ 2	▲ 5	▲ 3	3	0	▲ 1	0	▲ 11

表15 地区別救助人員数前年比較（単位：人）

	大崎市	色麻町	加美町	涌谷町	美里町	管外	高速道 (管内)	高速道 (管外)	合計
令和5年	25	1	3	2	1	0	0	0	32
令和4年	26	6	5	5	1	0	1	0	44
比較	▲ 1	▲ 5	▲ 2	▲ 3	0	0	▲ 1	0	▲ 12

図17 種別別 救助出動件数及び搬送人員

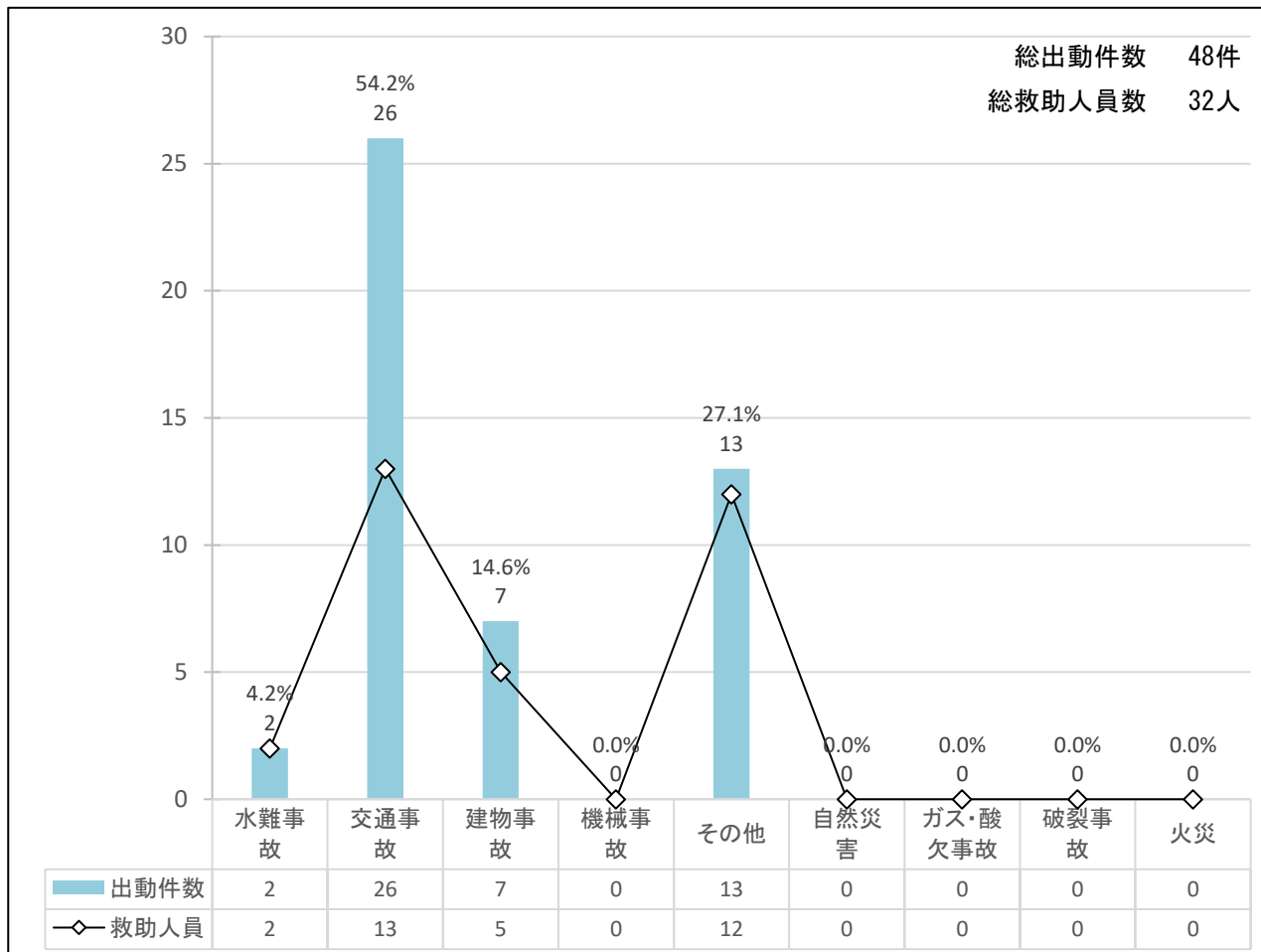
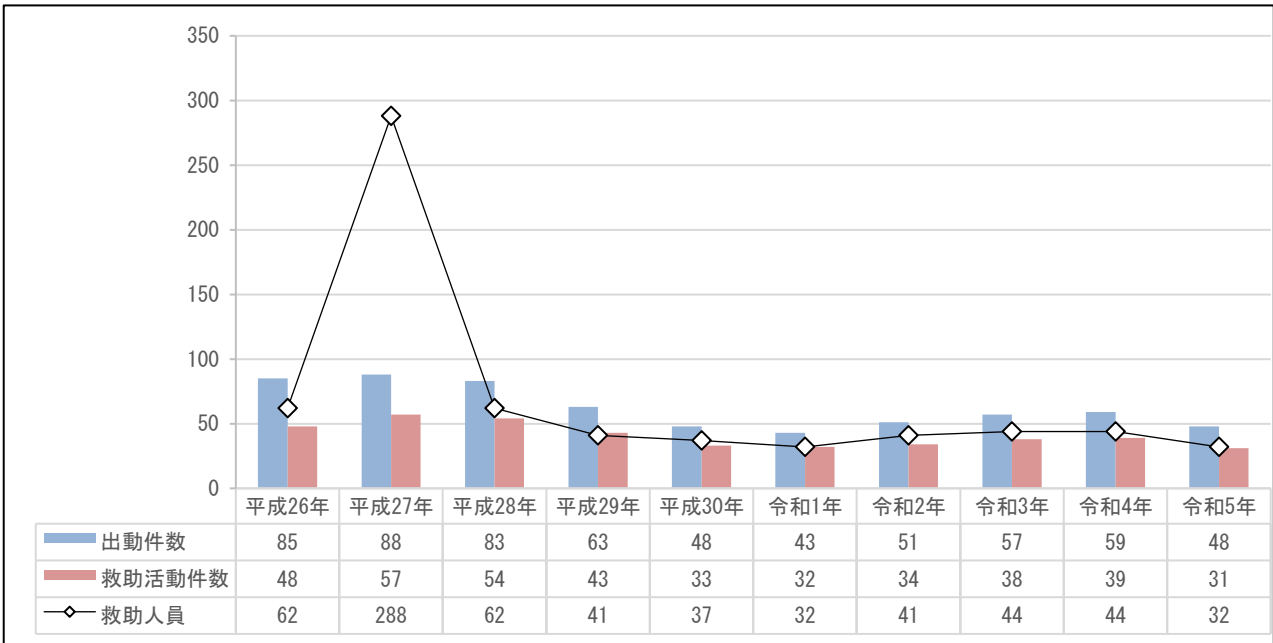


図18 過去10年間の救助出動件数



2 救助人員の傷病程度

救助事案で発生した傷病者の傷病程度は、死亡8人（前年比5人増）、重症2人（前年比3人減）、中等症4人（前年比16人減）、軽症5人（前年比6人減）、その他0人（前年比5人減）となっています。（表16）

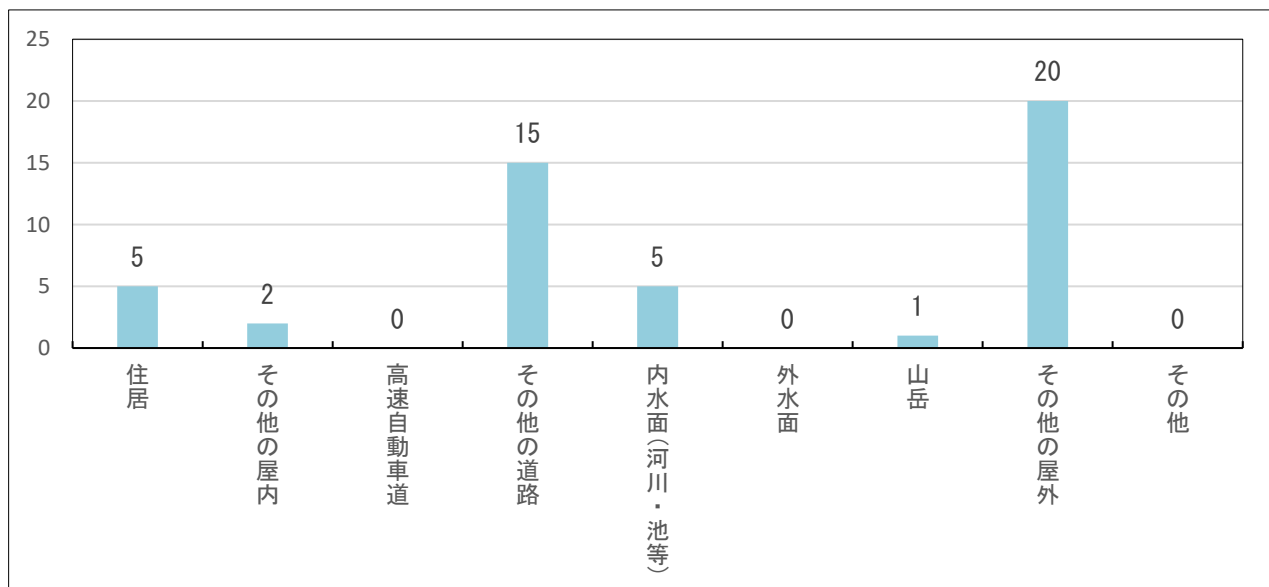
表16 救助人員傷病程度前年比較

	死亡	重症	中等症	軽症	その他	合計
令和5年	8	2	4	5	0	19
令和4年	3	5	20	11	5	44
比較	5	▲ 3	▲ 16	▲ 6	▲ 5	▲ 25

3 救助事案発生場所

発生場所については「その他の屋外」が20件(41.7%)、次いで、「その他の道路」が15件(31.3%)、「住居」が5件(10.4%)となっています。（図19）

図19 発生場所別出動件数



令和5年版 消防統計

令和6年2月
大崎消防本部 警防課

